

フィットネス施設従事者の不安定要素解消に対する研究

Study for Improving The Benefits and The Conditions for The Fitness Industry

スポーツクラブマネジメントコース

5009A322-4 波岡 茂和

研究指導教員：間野 義之 教授

1. 緒言

筆者は、フィットネスクラブでのトレーナー職とエージェンシーに所属してモデル職の二つを職業としている。しかし、モデルに関して、仕事を受注するためのオーディション情報がオーディションの前日に判明し、また首尾よく合格できた場合でも、その仕事のスケジュールが判明するのが前日となることが多い。モデル職での仕事とトレーナー職でのパーソナルトレーニング事前予約日が重複する場合は、その事前予約を断らなければならないこともある。事前予約を断り、モデルのオーディションに出向いても必ず仕事を受注できるものではない。一つのフィットネスクラブに属さずフリーで活動しているインストラクターに関して、現在の職業が好きだから続けたいものの、収入面での不安や将来に対する不安があり、今後どのように将来設計を行うべきなのか、また設計できたとしてもそれを実現するために何をしたらよいかわからないという声がある。筆者が以前トレーナーとして活動していたフィットネスクラブが突然倒産し収入が途絶えた。このようなリスクに対し、フリーのトレーナー職やインストラクター職に従事する人たちは失業保険等の保証があるわけではなく、失職などのリスクを考慮すると総じて安定的ではない。

このような職場環境で筆者を含め、フィットネス施設で指導者という職業を主としている人たちが将来のキャリアを考慮する場合、トレーナー職に従事する人たちがどのような状況下で働いているのか、どのように将来のキャリアを考えているのか、そしてそのキャリア実現に向けてどのような方法論があるのかということ調査することが、今後のキャリアプランを考えていくうえで重要なのではないかと考えた。

2. 研究目的

本稿では、現在フィットネスクラブなどのフィットネス関連施設において主にフリーで活動しているインストラクターやトレーナーが、現在抱えている不安、将来に対する不安を調査し、その不安を少しでも解消

するための解決策や改善案を提示することである。また、雇用主となるフィットネス施設運営会社に対し、職場改善等を促すきっかけとなるキャリアデータをまとめることを目的とする。

3. 研究方法

インストラクター職やトレーナー職に従事する人に対し、どのような意識で活動しているのか、また専業か副業の場合どのような職業を兼務しているか等をアンケートにより調査する。

調査対象

東京23区内5箇所および首都近郊2箇所のフィットネスクラブ事業所との契約を有し、フリーで活動するパーソナルトレーナー25名およびインストラクター98名、計282名

・配布数282部

・回収数123部（回収率43.6%）

調査方法

・質問紙留置法（職場にて配布回収）

調査期間

・2009年11月1日～11月30日

調査項目

・調査項目は、①活動について②リスクマネジメントに関して③仕事に関して④プロフィールに関しての4項目で構成した。

4. 分析方法

活動のスタンスで、パーソナルトレーナー・インストラクターのみの選択者を「専業」、それ以外の選択者を「副業」と分類し、各アンケート項目の回答について平均の比較、t検定、カイ二乗検定、回帰分析を行った。

5. 結果

回答者の活動のスタンスの内訳は、専業55人、副業は66人だった（表1）。

大部分では両者の間に優位さは認められなかった

が、リスクマネジメントにおいて専業に有意差が出た(表2)。

表1 活動のスタンス

	度数 (n=121)	パーセント	有効パーセント
PT・IRのみ	55	44.7	45.5
PT・IRの他にフィットネス関連の仕事をしている(そちらのほうが収入が小さい)	15	12.2	12.4
PT・IRの他にフィットネス関連の仕事をしている(そちらのほうが収入が大きい)	15	12.2	12.4
PT・IRの他にフィットネスに関連のない仕事をしている(そちらのほうが収入が小さい)	22	17.9	18.2
PT・IRの他にフィットネスに関連のない仕事をしている(そちらのほうが収入が大きい)	14	11.4	11.6

表2 リスクマネジメントに対する意識の比較

	専業		副業		t	p
	M	SD	M	SD		
貯金	4.47	0.98	4.34	0.99	-.745	.458
各種任意保険への加入	4.35	1.00	4.17	0.93	-.998	.320
栄養管理	4.65	0.67	4.29	0.95	-2.373	0.019*
睡眠時間の確保	4.49	0.77	4.43	0.87	-.399	.690
身体のメンテナンス	4.65	0.80	4.29	0.98	-2.193	0.03*
レッスン量の調整	4.42	0.90	3.97	1.12	-2.397	0.018*
その他3	5.00	0.00	4.50	0.58	-1.464	.203
n=119-120		M:平均値	SD:標準偏差		*:p<.05	

6. 考察

全体的に有意差はあまり出なかったが、リスクマネジメントに関して7項目中3項目専業に有意な結果が出た。いずれも貯金や任意保険への加入という「働けなくなった際に必要な」項目ではなく、栄養管理、睡眠時間の確保、レッスン量の調整といった、「働けなくなるリスクを減らす」という回答が特徴であろう。

年収に関しては、比較の結果、平均年に関し専業が285.58万円であり副業が338.57万円だったが有意差はなかった。しかし35～39歳の平均年収が465万円であり(2008年:国税庁民間給与実態統計調査)、回答者の平均年齢が34.99歳ということからも決して高い水準ではないだろう。また、専業で生活することができていることが、即ち必要十分なだけの収入を得ることができているとは限らないということである。しかし専業で単身と回答したのが26人だったため、一人で生活をしていくことに関しては問題ないということも推察できる。

決して多い収入が得られているわけでは何もかわらず、なぜあえて続けているのだろうか。やりがいに関する問いに対し、「お客様が喜んでくれたとき」(n=123)にやりがいを感じると回答したのは116人だった。このことから、仕事に対するやりがいがモチベーションを高める要素になっていると考えられる。

7. 結論

本研究では、フリーで活動をするトレーナー・インストラクターを対象にアンケート調査を行ったが、専業グループと副業グループで有意な差が出たのはリスクマネジメントに関する項目と活動スタイルに関する項目だけであった。

8. 今後の課題

今回の調査は雇用される側を主体としたアンケート調査だったためにその主観が強く表れているものと考えられる。従って、どのような人材を求めているのか、フリーで活動するパーソナルトレーナーやインストラクターにどのような認識を持っているのか、雇用する側を主体にした調査も必要だろう。また、今回は首都圏において調査を実施したため、首都圏以外の地域において同様の調査が必要だろう。地域性が調査結果に影響を及ぼす可能性が高いと考えられるからである。